

# 高丘中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
高丘西小学校区	やさしくまいにちとてをだいにいきいきとぶプロジェクト	・既存のネットワークの実態把握。サロン代表者や自治会長へ、センターや民生児童委員の役割周知を行い、気軽に相談し合える関係づくりを行い、即時相談の啓発を行う。既存の資源のバックアップを行い、まちなかゾーン会議を通して住民へ早期相談の啓発を行う。	総合相談 生活支援 体制整備 一般介護 予防	・山手台会館でのふれあい会食にて講話を計3回実施。同会館のサロン訪問による活動把握およびまちなかゾーンの健康教室への参加を呼び掛ける。 ・高丘西校区まちづくり協議会に毎月出席し運営協力を行った。幹事会で地域のキーパーソンとコミュニケーションを取り続けたことで、即時相談や実態把握につながった。 ・まちなかゾーン会議では毎年高丘中央コミセンで健康教室を開催している。山手台の方は遠くて行きづらいという声があり、今年度からはより住民が身近な場所・自治会館で健康教室を開催することで、住民のニーズがより細やかに理解できることにつながった。 ・山手台・緑が丘地域ネットワーク会議を開催。会議を通してお互いの活動を知り、認識し合うことができた。	・小地域で個々のつながりはあるものの、校区全体のつながりには至っていない。 ・隣接する地域でもお互いの状況は知らないことが多い。 ・既存の地縁組織等でも「後継者」と「多世代交流」は共通の課題。	校区全体で助け合いネットワークが構築されている。	①第2回山手台・緑が丘地域ネットワーク会議を開催する。 ②地域のキーパーソンと協働しゾーンの小地域活動を継続する。 ③高丘西校区まちづくり協議会と協働した地域づくりを行う。	継続
高丘中学校区	もしもの時の備え方	・より身近に感じてもらえる講話内容とするため、堅苦しい内容ではなく気軽に聞ける講話内容を考える。 ・講話に参加していただいた住民に明石市の人生会議ソールを配布し、意思表示することの大切さや、その場で記入していただくことで、人生会議について考えてもらう。	医療介護 連携 地域ケア 会議	・人生会議の啓発として、少人数の身近なサロン2か所での講話と、まちなかゾーン会議主催でのまとまった規模での健康教室との両方からアプローチでき、多くの住民を対象に自分事として考えてもらうきっかけづくりができた。	・自分が望む医療や介護について、自分自身で考えたり、家族と一緒に話し合うことができていない。	・住民だれもが人生会議を自分事として考えることができていく。	・全職種が「もしものときの備えシート」を普及させる。  ・サロンでの講話や民生児童委員・協力員の研修会等で、人生会議の啓発を行う。	継続

# 高丘中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
高丘中学校区	ふらっと♡ちよっと♡あつまろう会♡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者や過去に介護経験のある人達が集まり、自由に話をして帰れる場所をつくる。</li> <li>・シルバーサポーターに認知症カフェ等のスタッフとして協力を依頼する。</li> <li>・施設職員や医療従事者にも認知症カフェへの出務を依頼する。</li> </ul>	認知症 生活支援 体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月～シルバーサポーターを中心とした認知症カフェの「呆が楽会」が発足した。2か月に1回定期開催出来ている。誰もが気軽に朗らかに過ごせるカフェをコンセプトとしておられ、認知症の方だけでなく、一人暮らし高齢者も多く参加している。カラオケが出来るため、男性高齢者も活躍される場となっている。中学校区全体から毎回20名以上が参加し、男性の参加者も多く、誰もが自由に語り合える雰囲気の集い場になっている。</li> <li>・9月～コープ大久保にて「脳力アップ教室」が開催され、運営支援実施。シルバーサポーターの教室サポーターも、教室受講生もメンバーが欠けることなく、意欲的で順調に経過している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「呆が楽会」が認知症カフェとして立ち上がり、今後は買い物支援や集いの場など、様々な活動への展開が検討されている。</li> <li>・「脳力アップ教室」が開催され、教室終了後は、自主グループ活動への移行が検討されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「呆が楽会」が多世代のつながりと支え合いのプラットフォームになる。</li> <li>・自主グループとして、メンバーが主体的に取り組み、活動が定着する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「呆が楽会」の運営支援を継続する。</li> <li>・自主グループ活動の立ち上げ支援と運営支援を実施する。</li> </ul>	継続

# 江井島中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った課題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
江井島全域	江井島再生計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度に続き、江井ヶ島総合市場を拠点としたサテライト相談を継続する。</li> <li>センターを身近な相談窓口だと認識してもらえよう、出前講座などを通じて周知を行う。</li> </ul>	総合相談 生活支援体制整備 包括的継続的 認知症 権利擁護 医療介護連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月23日サテライト相談と健康測定会を同時開催した。訪問看護ステーションの協力を得て地域住民が21名参加した。</li> <li>10月11日個人向けオレンジサポーター養成講座を開催した。参加者へアンケートを実施。「センターを知っていますか」という設問に対し76%の住民が知っていると回答した。令和3年3月に実施した第1回サテライト相談会のとときには、同設問に対して知っている割合が59%であったことから、継続したサテライト相談、出前講座の取組がセンター周知につながっていることがわかった。また、講座受講者が下記のSOS声かけ訓練に参加するなど、活動者の発掘につながった。</li> <li>サロン、自治会、高年クラブ等へセンター職員による出前講座を計23回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動者への聞き取りの結果出前講座等の開催場所の再検討が必要となった。新たな活動場所の選定が必要になる。</li> <li>金融機関等の民間企業や圏域内のサービス事業所との連携が図れていないことから、早期の相談につながっておらず、地域資源が有効に機能していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フレイル予防研修会や出前講座に参加した地域住民が、気になる方の情報をセンターに相談しやすい体制が構築される。</li> <li>民間企業等から福祉に関する相談がセンターに入るようになり、早期発見・早期対応ができるようになる。また、地域資源が地域住民の希望に沿った形で活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度、江井ヶ島総合市場で実施していた出前講座を、地区社会福祉協議会等が、実施するフレイル予防研修会時やサロン、高年クラブ、自治会等の団体へ向けて行っていく。</li> <li>民間企業とは対応の困難な事例、圏域内のサービス事業所とは地域課題の共有を図り、必要な連携の在り方を検討する。</li> <li>次年度はプロジェクトを発展させ「みんなでつくろう支援のわ」へプロジェクト名を変更する。</li> </ul>	継続
大歳	大歳再生計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>大歳自治会館を活用し、センターの出張相談・出前講座を開催。大歳地区の住民が集まる機会を作り、地域住民のニーズについて調査を行う。</li> </ul>	総合相談 生活支援体制整備 一般介護予防 包括的継続的 医療介護連携 権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月19日に健康相談会を開催し、9名の地域住民が参加した。血管年齢測定と【数年後、大歳地区がどうなっていたらいいか】をテーマに座談会を行った。また、座談会後にアンケート調査を行い、居場所活動のニーズ把握を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座談会後のアンケートでは「活動があれば参加したい」と回答した方が多かった。</li> <li>日頃のご近所付き合いで、見守りを行えていることが明らかになった。</li> <li>自主運営の場合、自治会館の鍵の管理、自治会役員の負担増の問題があることが明らかになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民同士による日頃の見守りが継続され、支援が必要なタイミングでセンターに地域住民から相談が入る体制ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度はプロジェクトを発展させ「みんなでつくろう支援のわ」へプロジェクト名を変更する。</li> </ul>	継続

# 江井島中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った課題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
江井島全域	認知症意識醸成計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかゾーン会議主催で、SOS声かけ訓練を実施する。地域住民や民生児童委員、事業所等と協力し計画を進める。</li> <li>・オレンジサポーター養成講座の啓発チラシを活用し、地域内のサロン等に啓発を行う。</li> <li>・令和5年度に引き続き、大久保圏域を活動地域として登録されているキャラバンメイトの交流会を実施しキャラバンメイト同士での交流や情報交換を図る。</li> </ul>	認知症 総合相談 生活支援体制整備 地域ケア会議 権利擁護 包括的継続的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、認知症高齢者が空き家で亡くなって発見された自治会で、10月26日に認知症の対応の仕方を学ぶ学習会を開催した。11月16日にSOS声かけ訓練を実施した。SOS声かけ訓練には、学習会の参加者や地域住民、専門職など44名が参加した。訓練後のアンケートでは約9割の方が、継続した訓練の必要性を感じており、継続して実施していく必要性を再確認した。</li> <li>・オレンジサポーター養成講座の開催に向け、地域活動者から、人権教育推進員との連携について助言を得ることができ、地域支援者と協働する体制を構築できた。</li> <li>・江井島地区のキャラバンメイトは一つの病院に7名しかいないことがわかった。大久保圏域を活動地域として登録されているキャラバンメイト約60名のうち交流会に40名が参加したが、江井島地区からは1名のみの参加であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の理解や正しい対応の仕方が、早期に発見できる体制づくりの構築への継続した取組が必要ことがわかった。</li> <li>・オレンジサポーターやシルバーサポーターなど、理解者や活動者を増やす必要性が高いことがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の理解や正しい対応の仕方が周知され、必要な方への見守りが行えることにより、認知症になっても住みなれた地域で生活できる。</li> <li>・オレンジサポーターやシルバーサポーター等の養成講座の受講者が増加し、キャラバンメイトの活動をはじめ、地域の様々な活動の担い手として参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、自治会等に働きかけ、認知症勉強会、SOS声掛け訓練を実施する。</li> <li>・人権教育推進員と連携し、自治会等に向けてオレンジサポーター養成講座の開催を促す。</li> <li>・次年度はプロジェクトを発展させ「住み慣れた地域で暮らし続けよう」へプロジェクト名を変更する。</li> </ul>	継続

# 魚住中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
魚住中学校区（中尾）	遠い地域までセンターのことを知ってもらおうぞ！プロジェクト	健康チェック及び防災について自治会長と話し合いの場を設けた。7月にまちの保健室に依頼し、中尾会館で健康相談会のイベントを行った。自治会長と健康相談会の振り返りを行った。	一般介護予防	7月のイベントの際にセンターのブースを設けていたが、相談はなかった。  自治会役員の方との関係性を築くことができた。	従来より明石高専と自治会とのつながりがあり、12月の防災訓練の実施計画が既に進んでいたことが確認できた。  自治会長と信頼関係が築けたため、令和6年も健康イベントの実施希望があった。	令和6年度の健康相談会についても、実施希望があるため、令和6年7月に実施予定。  自治会から要望があれば、協力し、いつでも相談し合える関係性の継続。	年1回の健康イベントにセンターの周知活動を含め、参加する。	その他
（新小谷）	遠い地域までセンターのことを知ってもらおうぞ！プロジェクト	新小谷会館で行われているサロンに毎月1回訪問した。  1人暮らしの方に安否確認事業として、飲料配付を行った。  飲料配付時に生活状況の聞き取り確認をした。	総合相談	実態把握のためのインタビューは、実施できていないが、調査・分析のための情報収集につながる関係性が築けた。	飲料配付やサロンに訪問した結果、相談できず困っているというより、別居家族の支援が得られている世帯が多いことが分かった。自治会活動が安定しているため困りごとがあれば、自治会へ相談に行くということで、相談先は、自治会か自分の子供に相談すると話されていた。	②の結果。必要時に自治会、家族を通じて相談が入ってくることが分かったため、新小谷地区での計画は終了する。サロンに来ていない人や飲料配付対象になっていない人についての支援は民生委員や民生協力員と連携を継続し適宜対応することとする。		継続

# 魚住中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
錦浦小学校区	認知症をつつむまちづくり	9月にオレンジカフェの主催者とセンター職員で話し合いの場を設けた。 2月にオレンジカフェの役割を運営スタッフと再度確認。  オレンジカフェの周知を地域で行う。周知を行う方法として、オレンジサポーター養成講座、認知症の研修会を開催し認知症についての理解を深める取り組みを行った。また、過去3年に遡り錦浦小学校区の認知症に関するセンターへの相談件数を把握した。	認知症	オレンジカフェの運営について、運営者が主体的に運営できるようになった。 SOS声掛け訓練は必要性等実施の動機付けになる働きかけができなかったため、引き続きオレンジカフェを通じた訓練の意義等の啓発が必要。	錦浦小学校区の認知症に関する相談件数は、年々増加している。  オレンジカフェがある中尾に限らず、錦浦小学校区全体に認知症の理解を広げるの必要があると感じた。	錦浦小学校区の集いの場を切り口にオレンジサポーター養成講座を開催する。その際にオレンジカフェのスタッフに協力を要請するなどして支援者同士の連携を図る。	錦浦小学校区でオレンジサポーター養成講座の実施。  オレンジカフェのスタッフの方との関係性の構築を継続する。	継続
錦浦小学校区	いきいきわくわくプロジェクト	西岡高年クラブの会長と信頼関係を築き、西岡高年クラブのメンバーと話し合いの場を設けた。高年クラブメンバーに現居での活動の満足度を中心に聞き取りを行った。	生活支援体制整備	高年クラブとして、何ができるか模索されていることが分かった。他の高年クラブの活動について情報提供を行った。12月に開催されたお誕生日会に参加し、活動把握と参加者と信頼関係を構築した。	他の高年クラブとの関係性が希薄であり、活動活性のための情報が少ないことが分かった。体操等、週単位の活動は、検討されていない様子であった。お誕生日会には、15名が参加していた。その中に95歳の方が参加されており、戦争の話をされていた。その方に戦争の話をさせていただく機会を作ろうと会長が話される。花壇コンクールに向けて、花壇も整えておられた。	西岡高年クラブの活動が継続されるよう支援する。	高年クラブの状況を把握した結果、3か月に1回の活動が続けられていたため、終結とする。	終結

# 魚住東中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
金ヶ崎県住	最期まで安心して暮らせる金ヶ崎県住プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当民生児童委員より、取り壊しを控える金ヶ崎県住の現状を聴き取りする場を設ける。</li> <li>・自治会役員とつながりをもつ。</li> <li>・個別訪問が必要な世帯の訪問者リストを作成する。</li> </ul>	総合相談  生活支援体制整備  地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり暮らし台帳登録者について民生児童委員から聴き取りを実施。訪問で県住の居住状況を調査し、自治会長から気になる世帯の情報等を収集し、住民のリストを作成した。</li> <li>・困り事の相談先としてセンターの周知を行っているが、当初の目標である見守り体制の構築には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問した方の多くは、自転車等で外出ができる身体状況、家族の訪問や支援を受けられる環境にあり、支援が必要な困り事は確認できなかった。</li> <li>・訪問時、救急れんらくばんを配付したが記入のフォロー等が必要なケースがあったことから、配付後の運用状況の確認が必要。</li> <li>・年初に自治会存続の危機があり、今後自治会が解散する懸念がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターの機能や役割が地域に周知されることで、自治会役員や民生児童委員、協力員との連携が進み、住民の困りごと等が相談しやすい体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後必要に応じて連携できるように、自治会長や民生児童委員と関係を維持する。</li> <li>・住宅管理担当者に、住民から介護等の相談があればセンターにつないでいただくよう紹介する。</li> </ul>	その他
長坂寺県住	顔の見える関係づくり長坂寺県住プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生児童委員、自治会役員と住民の生活状況や自治会運営状況等を共有する。</li> <li>・新旧入居者の世帯状況（要配慮世帯の有無など）実態把握をする。</li> <li>・約2年後の集会所が建て替わるタイミングで、住民同士が交流を図れる機会をつくれるように、キーとなる住民を発掘する。</li> <li>・県住の実態把握、つながりを保つために、年数回の出前講座を自治会に提案する。</li> <li>・自治会役員、住民とつながりを保つため、住民が集まる場に参加する。</li> <li>・住宅管理担当者に住民の入れ替わり状況を伺う。</li> </ul>	生活支援体制整備  地域ケア会議  包括的継続的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の運営の進捗により住民との意見交換の場を設けることを提案できていないが、定期的に県住を訪問することで、一部の自治会役員や住民との関係を築いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会長、副自治会長を通じて、健康講座開催を役員会に働きかけたが、賛同を得られず開催に至らなかった。自治会への依頼を負担と感じられているため、働きかけ方の工夫が必要。</li> <li>・住民の入れ替りについて、住宅管理担当者によると外部からの転入は全体の1割程度と情報を得たが、住民の実態把握をするには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約2年後の集会所が建て替わるタイミングで、住民同士が交流を図れる機会をつくれるように、キーとなる住民を発掘する。</li> <li>・県住の実態把握、つながりを保つために、年数回の出前講座を自治会で開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座の機会を得られるように、引き続き自治会役員に働きかけていく。</li> <li>・集会所活用に関する住民ニーズを把握するため、座談会の開催を自治会や高年クラブ、その他住民に働きかけていく。</li> </ul>	その他

# 魚住東中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
魚住東地区	認知症プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コープ意見交換会に参加し、地域課題を共有する。（認知症の方の集いの場の現状について）</li> <li>・認知症理解を深める場所（サロン等）の選定。</li> <li>・担い手の発掘（シルバーサポーター交流会を開催）</li> </ul>	認知症 生活支援体制整備 一般介護予防 権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か所（守池・長池自治会）の集い場でオレンジサポーター養成講座を開催した。認知症を正しく理解するとともに、社会参加のメリットを伝え誰もが参加できる場になるよう働きかけた。</li> <li>・シルバーサポーター交流会で意見交換をすることによって、新たな発見やお互いの活動を発展させることにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オレンジサポーター養成講座を通じて、地域での支え合いを参加者同士で再確認することができた。</li> <li>・開催が一部の地域に限られるため、総合相談の傾向から他地域でも取り組みを考える必要がある。</li> <li>・シルバーサポーター交流会が活動の情報交換に留まり、新たな担い手発掘に繋がっていない、活動につながる働きかけが必要。</li> <li>・スーパーの従業員が認知症の人の対応に困っていることを把握した。対応方法の啓発の必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オレンジサポーター養成講座開催後に、認知症当事者や家族の居場所への参加が増える。</li> <li>・サロン等の既存参加者に認知症状況が出た際に、お互いに見守りが行える環境となる。</li> <li>・認知症の人が買い物等の日常生活を送ることができ、店舗で困っている人がいる場合に適切な相談先につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで取り組めていない地域や企業等でオレンジサポーター養成講座を開催する。</li> <li>・シルバーサポーター交流会をキャラバンメイト等も含めた交流会にし、活動の幅が広がるようにしていく。</li> </ul>	継続

# 二見中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
東二見漁協付近	つながりプロジェクト	<b>【1】 サテライト相談を拡充した</b> ① 1か所から3か所に増やした ・上西厚生館（毎月第2金午前） ・二見はまなすの会（第4水13:30-） ・阪神調剤薬局（半年に1回） ② サテライト相談会の周知 ・サテライトのチラシを作成し上西厚生館で配布	総合相談  生活支援体制整備	①について、上西厚生館（毎月実施）、二見はまなす会（1回/年）、阪神調剤薬局（2回/年）実施した。 ②について、チラシを作成し、上西厚生館へ設置するとともに、サロンで配布した。	はまなす会に関しては参加者が固定されており必要時にはサロン代表者を通じてセンターへ相談が入る体制ができており、相談・解決できる力がある参加者が多い事が把握できた。 上西厚生館に関しては、毎月参加する事で気軽に相談できる体制が整えられた。	困った時に早期に専門職へ相談することができる地域づくり。	サロン代表者など、地域のキーパーソンから生活上に困難を抱えている人へセンター周知ができるようにサテライト相談のチラシを二見全域の公的機関や自治会館を中心に配布し、特にセンターから遠く離れている二見北地区のサロンなどへも配布する。	その他
		<b>【2】 四職種が多様な障害の特性について学んだ</b> ・あかし保健所との情報交換会を実施 ・センター職員の内部研修（権利擁護について）	権利擁護 地域ケア会議	あかし保健所と情報交換会を実施した。明石市基幹相談支援センターとの連携については日々の連携を大切に丁寧に実施した。センターの内部研修については高齢者虐待対応の基礎知識について学んだ。 各機関の役割や対象者の特徴が理解できることで多機関協働がスムーズにできるようになった。またセンターのみならず「二見まもろう会」を通じて二見圏域の介護サービス事業所へと広域での学びの場を作ることができた。	あかし保健所との情報交換会では、それぞれの機関の考え方を知ることができ、また日々の事例対応において連携を密に行い協働することで学びが深まり顔の見える関係性へつながった。	お互いの立場や役割を理解し密に連携を図ることができる。	現在の連携が維持できるように、日頃から密に連携を図る。保健所との情報交換や、内部研修での学びから、つながりプロジェクトを地域を限定せず範囲を広げて行えるよう発展させることを目指す。	その他
		<b>【3】 どのような活動の担い手が必要なのか調査を行った</b> ・二見はまなす会やその他のサロンに参加し、スタッフのニーズ調査を実施 ・まちなかゾーン会議の運営	生活支援体制整備 地域ケア会議 一般介護予防	・サロンへ参加し、サロンの運営状況とスタッフの思いを傾聴し後方支援を行った。 ・コロナ禍で休止していたまちなかゾーン会議をR4年から再開し継続して実施した。	まちなかゾーン会議については休止期間が長かったため、再度、会員に向けて会議の意義や目的、方向性について周知を行う必要性があった。	まちなかゾーン会議については、地域住民と専門職が地域課題に対して共通認識を持ち、協議を進めることができる。	まちなかゾーン会議については、会員の皆様が有意義に協議できるようにグループワークの内容や方法について工夫する。	その他

# 二見中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
あわの自治会	つながりプロジェクト	<b>【1】健康測定会、介護予防教室を実施した</b> ・淡野県住、市住東二見 ・各サロン、高年クラブ、自治会等各地域に応じて実施（9か所） ・二見まもろう会と協働して実施した	一般介護予防 生活支援体制整備 包括的継続的	サテライト相談を兼ねた健康測定会を淡野県住で年に2回実施予定であったが、第1回開催時に自治会長の協力の元、全戸へ案内のチラシを手渡しにて配布したところ、「今のところ困り事はない」との回答が多く、男性介護者に対してはすでに支援が届いていると判断し、2回目の相談会は別会場で実施することとなった。	高齢化率は高いが互助、自助の力があり、自治会長が気になる方へは見守りを行っていることが分かった。	二見全域において男性介護者が孤立することなく、困った時にSOSを出すことができる。	地域の傾向を分析し、他の場所で男性介護者の状況について実態把握を行う。	継続 拡充
		<b>【2】認知症の理解促進を行った</b> ・オレンジサポーター養成講座を継続して実施 ・キャラバンメイト交流会 ・消費者被害予防周知活動 ・人生会議の普及活動	認知症 生活支援体制整備 権利擁護 医療介護連携	オレンジサポーター養成講座の依頼が多く、認知症の正しい理解の普及につながった。また警察からの消費者被害の講話を地域のサロン2か所で実施することで警戒心を持っていただけるように働きかけることができた。人生会議の普及に関しては、『もしもの時の備えシート』をオレンジサポーター養成講座実施時に配布することで興味関心を持ってもらえるきっかけづくりにつながった。	今年度初めてキャラバンメイト交流会を実施したことで、キャラバンメイトに地域貢献活動のニーズがあることが分かった。消費者被害については警察に問い合わせた所、中学校区毎のデータや傾向は分からないとの返答であったため、二見地区における消費者被害についての現状は把握できない状況である。	地域住民に認知症の正しい理解の普及が促進できる。	・高齢者世代だけではなく、若者世代へも認知症の正しい理解の普及を行うため、学校へオレンジサポーター養成講座の受講について働きかけていく。 ・キャラバンメイト交流会はミックスカフェ立ち上げ準備と認知症の方への対応についての課題共有のため、継続する。 ・認知症の方を介護する家族が語れる場づくりについて、協力者の担い手と会場選定のために情報収集を行う。 ・消費者被害についてはチラシの啓発と情報収集を継続する。 ・人生会議については『もしもの時の備えシート』をオレンジサポーター養成講座で引き続き配布する。	継続
		<b>【3】複合多問題を抱える世帯を支援する支援者支援ができる</b> ・居宅介護支援事業所巡回 ・ふたみまもろう会の運営 ・特定事業所事例検討会 ・介護支援専門員交流会の開催 ・医療機関巡回	包括的継続的 生活支援体制整備 医療介護連携	包括的継続的事业の一環として実施した。今年度、新たに介護支援専門員中心の会議体（teku teku）を立ち上げ、課題の共有や検討、民生児童委員と介護支援専門員の交流会を実施した。	複合多問題を抱える世帯への支援については支援者の力量により差が出るということが分かった。	支援者が利用者主体の支援ができるようになる。	支援者のスキルアップを行うための支援ができる。	その他